

R 立命館大学大学院 応用人間科学研究科 校友会

News letter No.2

2012年 7月発行

CONTENTS

- ・2012年度 対人援助フォーラムを終えて
- ・修了生より
- ・昨年度の活動紹介(10周年記念パーティ)
- ・校友会新役員紹介
- ・書籍紹介
- ・編集後記・入会方法ほか

【特集】2012年度 対人援助フォーラムを終えて

現役生、ダイアログパーティ実行委員の皆さんからメッセージをいただきました！

■ダイアログ・パーティーという新たな試み

2012年度の対人援助フォーラムは、これまでのものとは違う院生主体の企画として開催致しました。応用研の理念である「連携と融合」はなかなか実現が難しいことですが、まずその前段階のことが出来ないか、実現に向けての第一歩を形あるものとして実行できないかと思い、「ダイアログ（対話）から始まる連携」としてダイアログ・パーティーを開催させて頂きました。当日は院生、校友会、教員併せて35名にお越しいただき、感情や想いの共有をする場に出来たかと思えます。

*以下に、共にダイアログ・パーティーを形にしてくれた実行委員会メンバーの感想を掲載させて頂きます。

今回、対人援助フォーラムに参加させていただき、何より印象に残ったことは、ゲストのどの方のご活躍も、様々な領域にまたがった上でのものであり、必ずしも「臨床心理」「社会」「教育」で単純に区切れるものではなかったことである。対人援助を行うためには、その人の心を捉えるだけでなく、その人の家庭面や教育面での歴史、その人を囲む法律や集団のルールまで考慮せねばならず、また援助者自身の人間や未来へのヴィジョンが問われるのだと気づかされた。一人の人間に関わるということは、こんなにも深いことなのだと感じた。(臨床領域、教育クラスター、中間)

ご参加いただいた皆様、お忙しいにも関わらず連絡調整・当日のスタッフを買って出っていただいた皆様、ありがとうございました。当日は私の不手際がありましたが(本当に失礼致しました…)、校友会の皆様からも「良かった」という感想をいただけて嬉しく思います。スタッフではなく一人の現役生の参加者としての感想ですが、研究科を修了されて社会でご活躍されている先輩方とのダイアログ・講演はとても刺激的でした。「早く人の役に立てるようになりたい！」と気持ちが掻き立てられ、修論や実習に励んでいる毎日です。そんな毎日を繰り返して10年くらい経って、手元にフォーラムの案内が来たら参加したくなるのかな、と今思います。

(臨床領域、藤原)

参加して下さった校友会の皆様、ありがとうございました。準備に携わった者の一人として、皆様に満足いただける会であったのなら幸いです。一緒に学んだ仲間、お世話になった先生方に加えて、現院生とも交流していただきたいとの開催主旨を鑑み、現院生が皆様から受けた刺激を今後に生かすことで、「参加して良かった」との思いをより強くしていただけるのかなと考えたりしています。そのような観点においては、目に見える結果が出るのは10年後なのかも知れません。プロフェッショナルとして活躍しておられる先輩方のように、あるいは先輩方に負けないように、10年後を見据えて学んでいきたいと思えます。(対人領域、行動、井篠)

ご協力いただいた皆様、後ろで陰ながら支えていただいた皆様、本当にありがとうございました。

今後とも応用研の後輩を宜しく願います。

(文責、対人領域、家族クラスター、上岡)

●キャリアパンフレット●

2012年度対人援助フォーラムの様子は「キャリアパンフレット」という小冊子にまとめ、掲載致します。ゲストそれぞれの進学の動機、院生時代の話、修了してからの話などキャリアに関する内容、当日のフォーラムの様子を内容に発行する予定です。

今年度は10月末を完成目標に、紙冊子にして配布する他、電子版を作成して、応用人間科学研究所および校友会の各HPにアップロードする予定です。

応用人間科学研究科の現役院生にはキャリアについてのビジョンを形成する助けに、また卒業生には連携を深めるきっかけになればと思っております。(実行委員会より)

▼表紙イメージ(予定)



■対人援助フォーラムを終えて(校友会)

もともとは「現役生一修了生との交流の場」というささやかな企画が、いつの間にかおおごと?になり、主催者・共催者ともに慌ただしい日々を過ごしました。特に現役生の方々はM2の大変な時期に中心となって頑張ってくれました。先生方には、お忙しい中相談に乗っていただき、当日もあたたかな眼差しとご支援をいただきました。心よりお礼申し上げます。

さて、志が同じであっても、それを形に表していくときには合意と共通認識は欠かせません。そういう意味で、十分ではなかったこと、また、やってみて見えてきたこともあります。

今回このような形でフォーラムが実現できたことをきっかけに、話し合いを続け、課題を共有しながら今後につなげていきたいと思っております。

今後とも皆様のご協力をよろしくお願い致します。

対人援助フォーラム2012 実施報告

1. 名称：対人援助フォーラム2012「先輩たちとのダイアログ・パーティー」
2. 企画立案：キャリア支援プロジェクト
3. 主催：ダイアログ・パーティー実行委員会 応用人間科学研究科
(共催：応用人間科学研究科クラス会 応用人間科学研究所校友会)
4. 日時：6月17日(日) 受付開始 13時30分
・ダイアログ⇒14時～
・懇親会 ⇒17時半～
5. 場所：立命館大学 衣笠キャンパス 諒友館
・ダイアログ⇒地下食堂
・懇親会 ⇒1階
6. 参加状況：
・ダイアログ⇒35名
・懇親会 ⇒28名
7. 校友会入会状況：3名
8. 内容：
・ダイアログ⇒ゲストによる講演/ダイアログ(全員参加)
・懇親会 ⇒立食による懇親会

※詳細報告は次回の総会で行う予定

▼2012年度 対人援助フォーラム(広報チラシ)



▼ダイアログゲスト

- ・臨床心理系：山崎昌子さん(1期生、臨床心理学領域)
- ・社会系：相良考雄さん(2期生、対人援助学領域)
- ・教育系：松田 祥さん(1期生、対人援助学領域)

☆フォーラムウラ話クイズ☆

さてこちらは、ダイアログ・パーティー直後の記念撮影の写真。皆さん、とても良いお顔をされていますが、実はコレ、写真を撮ってくださった嶋津独立研究科事務長の「ある声かけ」によってシャッターが切られております。さて、どんな声かけだったのでしょうか？

ヒント：

今回のゲストの相良さん(写真中央)が、就職の面接の際、「まあだまって○○鍋を食え！」と言われたそうです。

では答えは相良さんまで・・・というのは冗談ですが、和気あいあいとした雰囲気にあいまって、キムチ効果が絶大に発揮された瞬間でした。



■修了生より



◆専任の司書教諭として

棚橋 慎介（1 期生：人間形成・臨床教育クラスター）

私は 2001 年度に研究科一期生として入学し、3 年間に在籍した後に修了しました。M2 回生から教育現場に身を置き、8 年間の非正規雇用を経て、現在は大阪市内にある私立の中高一貫の男子校で専任の司書教諭として勤務しています。もともと教職を志し、そのために大学院に進学したのですが、講師として教壇に立つ間に考えが変わり、もっと別の方向から教育に携わることができないかと模索し続けた結果、現在の仕事にたどり着きました。

一般的に司書教諭と言うと、教科担当者が兼務している例が大半ですが、私は図書館業務のみを任されています。業務内容は、レファレンスを含むカウンター業務にはじまり、図書の選書、発注、登録、配架などの一連の受入業務、経理処理、広報紙の作成、館内ディスプレイなど多岐にわたります。本校では生徒の図書委員がいないため、これらの業務を私と非常勤職員の 2 名で担当しています。図書館の運営については、主任である私の裁量に委ねられている部分が大きいため、仕事としてはやりやすい環境にあります。その反面、図書館自体があまり学校に活用されていないという現状もあります。それを改善していくために、まず図書館の可能性や存在感を学校に示すべく、広報活動を見直し、その役割の質的変換を打ち出していくことが、本校図書館の目下の課題となっています。

その一方で、今年の 4 月から不登校生徒の別室登校の受入先として、図書館が利用されることになりました。これは少なくとも近隣の学校図書館では行われていない取り組みです。今のところ私は彼らの登下校時間を記録し、時に世間話をする程度の役割ですが、彼らが登校するための選択肢が増えることは望ましいことであると考えます。今はまだはじまったばかりの手探り状態ですが、今後は担任、保健室、カウンセラーらと情報交換を図りながら、彼らをバックアップする一端を担うことになりそうです。

しかしこうした状況は、近年の学校図書館を取り巻く環境の中でかなり恵まれていると言えます。大阪府下の公立高等学校では、2009 年度より学校司書の専任制度が廃止され、図書館担当者は理科や家庭科の実習助手を兼任することになりました。その結果、図書館業務に割ける時間は減少し、十全な読書活動、読書指導が行えないことへの懸念の声が上がっています。私立高等学校でも、いくつかの学校ではそもそも学校司書を配置していなかったり、そのために図書館が開館していない、または開館時間を制限しているといったケースが少なくありません。府下の学校図書館担当者が出席する大阪府高等学校図書館研究会の地区会議では、そうした窮状の報告が相次ぎ、（会議に出席することもできない学校も多数あります）、今後の会議の存続すら危ぶまれているというのが現状です。

このような学校図書館に対する逆風の中、専任の司書教諭として採用されたことは私にとって大きな幸運でしたが、それは同時にその逆風をはねのける働きが要求されているということでもあります。司書教諭の仕事は成果や目標が見えにくく、学校という現場において主体となることはまずありません。しかしその先にはひとりひとりの生徒がいて、彼らの成長や人間形成に少なからず影響を与えているのも確かなことです。その責任の大きさを常に自覚しながら、これからも図書館活動の充実化を図っていきたいと考えています。

◆福祉施設で働いて感じること

濃添晋矢（1期生：障害・行動分析クラスター）
（社福）悠々倶楽部 ライフステージ・悠トピア

私が勤務しているライフステージ・悠トピアは、神奈川県秦野市にある障害者支援施設で、重度知的障害者を中心に利用者は全部で60名ほどになります。秦野市へは、京都から小田原まで新幹線で2時間、小田原からは小田急線に乗り換えて30分で行くことができます。北に丹沢山系の山々を望み、南は車で30分走れば湘南海岸です。新宿や横浜までのアクセスもよく、ベッドタウンとして人口も多いですが、豊かな自然もたくさん残っていてきれいなところですよ。市内には弘法大師が訪れたと伝えられる鶴巻温泉があり、由緒ある温泉旅館もあります。



作業棟から見た市街地



生活棟玄関



生活棟中庭

ライフステージ・悠トピアは、小田急東海大学前駅から徒歩15分ほどのところにあります。江ノ島や横浜方面を一望できる高台にあり、自然にも囲まれて生活環境としてはとてもよいです。開所して今年で10年目になります。入所利用者が生活する部分は5つのユニットに分かれていて、1ユニットで10数人が生活しています。平日の日中は作業棟で木工や陶芸、ビーズ、織物など作業の時間になります。土日は作業が休みとなり、散歩やドライブ、調理、買い物などで余暇を過ごします。スタッフは30数人おり、主な仕事は食事や入浴、着替えなどの生活支援です。1ユニットにつき3～4人のスタッフが早番・遅番の交代勤務でまわっていきます。1人で10数人の利用者の支援にあたることが多く結構大変です。でも、利用者の行動問題が軽減されたり、一生懸命準備した休日の過ごし方で喜んでくれたときなどはやりがいを感じる仕事でもあります。私は開所した年に生活支援員として就職し、今年で10年目になります。「若手」と呼ばれた時期はあっという間に過ぎてしまい、今では若手を教える立場になりました。最近は「福祉施設における人材育成」というテーマを追求しています。福祉というのは人が提供するサービスなので、人材を確保、育成していくことは必須ですが、激務であり離職率も高かったりして、腰をすえて人材育成に力を入れることが難しいのが現状です。どうしても事故やトラブルにならなければいい、というようになりがちで、利用者のQOLは二の次ということも多々あります。私のユニットでは、「仕事チェック表」や「環境整備チェック表」などのアイテムを活用し、キャリアが浅いスタッフでも仕事をこなせるようにし、その結果利用者のQOLも向上させるということを目指して日々実践を重ねています。やっているうちに気づいたことなのですが、人材を育成するということは、育成する側の変化も求められます。また、育成される側の仕事スキルをアップさせることももちろん重要なのですが、それが発揮できるような職場内の環境を整えていくことも同様に大切です。これらの実践をまとめたものを少しずつ学会や論文投稿などで公開しています。

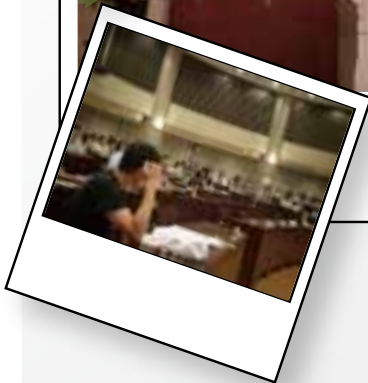
こんな活動ができるのも、応用人間での2年間で得た知識や経験があってこそです。あのころはつらいこともたくさんありましたが、今となっては糧になっています。また、社会人として働いていて感じることで、自分の職場内での評価を得ることだけを考えてはいない仕事はできません。職場外で自分の仕事について評価を受ける機会をどこに見つけていくか、ということを考えたときに、応用人間の校友会の活動はとても可能性に満ちていると思います。職種や学問領域を超えて情報交換ができる場というのは、なかなかないことなのでしょう。修生生を含めたネットワークがどんどん広がっていくといいですね。この校友会の活動が、新しい実践のきっかけとなりますように。

■昨年度の活動より（写真 10周年記念行事）

10周年記念式典・シンポジウム・パーティ



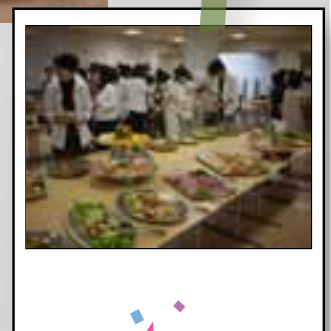
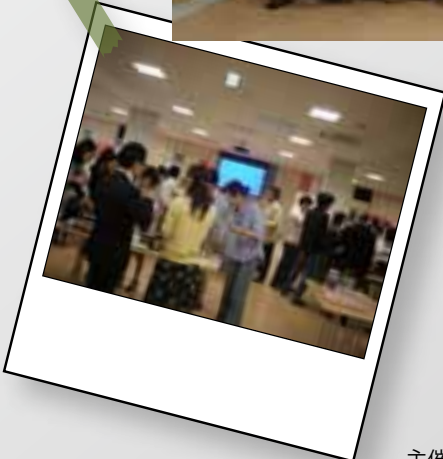
10周年を記念して、東日本大震災と大学の役割をテーマに、シンポジウムが開催されました。
校友会は記念行事のなかで、シンポジウム後に開かれたパーティを担当しました。



2011年7月2日（土）
立命館大学 衣笠キャンパス



諒友館地下パーティ会場にて記念撮影



主催：立命館大学大学院応用人間科学研究科
共催：立命館大学大学院応用人間科学研究科校友会

■校友会新役員紹介

任期：2011年10月～2013年9月

鈴木史織 (SUZUKI,Miori)

7期生 対人援助学領域 障害・行動分析クラスター

7期生の鈴木史織と申します。修了後、実験・実習相談室で3年とちょっと働いてきましたので、校友のみなさまとお会いする機会もありましたが、この度校友会の役員にも加えていただくことになりました。正直なところ、現役生の頃は、こんなに長く応用と関わることになるとは思っていませんでした。2年で修了して、その後はそんなに関わることもないかと思っていましたが、ひょんなことから職員として働くことになり、後輩達が育っていくのを見たり、先輩方とイベントなどで関わったり…。特に、昨年度は応用人間科学研究科の設立10周年記念で、多くの校友の方々にお会いすることができました。今では、院生の頃に思っていたように、2年で修了したらその後は特に何もなし、とならなくてよかった、それはもったいなかった!と思っています。すでに修了されている方、これから修了していく方にも、同じように思っただけのよう、役員としてできることをしていきたいと思っています。



渡邊佳代 (WATANABE,Kayo)

1期生 臨床心理学領域

2011年より、校友会役員に加えていただきました。同期の野池くんと浅井さんの熱意に押されて、つい引き受けてしまったというのが正直なところですが、私自身、やっぱりこの校友会が好きなのだと思えます。私は応用の1期生として卒業しましたが、様々な支援の現場で修了生と再会したり、連携することが多くなりました。校友会主催・共催のイベントでも、同窓会のように皆さんの実践を知ることができて、毎回楽しみにしています。

応用の理念である「連携と融合」は、卒業して実際の現場に出るから、それがとても難しい実践であることに気づきます。幸いにも応用の特徴として、福祉・心理・教育に関わる現役生・修了生の多さとネットワークがあります。他職種・他領域の方々からアドバイスやアイデアをいただいたり、互いに良い刺激をもらって支援の質を向上できる場——そうした場を創るお手伝いが、ささやかでもできたらと思います。

これからどうぞ宜しくお願い致します。



●●●書籍紹介●●●

学校を「より楽しく」するための応用行動分析
～「見本合わせ」から考える特別支援教育～

武藤 崇 監修
坂本 真紀 著
2011/10月発行
B5・216ページ
3,150円(税込)



昨年、OGの坂本真紀(1期生)さんが本を出版されました。『障害・行動クラスター』の皆さん、特に必見!?

*テキスト帯より

“学校現場で応用行動分析を「体感」するための入門書”
応用行動分析の「とびら」ここにあります!

*監修者まえがきより (一部抜粋)

もし、この本のキャッチコピーを作るとしたら、「見本あわせ課題で始める応用行動分析：援助・支援者のためのスタートアップ完全ガイド。ピンポイントな話題設定、『ゆる・かわ』なインターフェイス。

*筆者あとがきより (一部抜粋)

もしかしたら、他の行動分析の専門書にはない言い回しをしているかもしれませんが、「現場の声」を直接聞いた上での言葉の選択ですので、その点に関してはお許しいただきたいと思っています。

●書籍・論文募集!
校友会ニュースレターでは、修了生をはじめ校友のみなさんが発表された書籍や論文を募集しています。自薦他薦は問いませんので、校友会までぜひお知らせください。紹介させていただきます。

■ 編集後記 ■

数年前、はじめて校友会から書類が届いたとき（確か校友会発足の案内だった）、正直、「何かたいそうな書類きたな。ま、私別に何に活躍しているわけでもないし、関係ないか。返事だけしとこ。ぼい。」であった。そんな自分が役員をして、今回に至っては編集後記まで書くことになるとは、自分でも不思議である。でも、ささやかながら1期生の友人らをはじめ、10年経ってたくさんに増えた校友の皆さんの役に立てることがあるなら、気持ちだけで何ができるでもない私にとっては、ありがたい話である。

さて、校友会の活動としては、昨年度は研究科と、今年度は現役生と協力をして企画をすることになった。これも校友会が発足してから地道に活動を続けてきたことの賜物ではないかと思う。憚りながら2年以上前から校友役員関係者として、初代校友役員の方々のご苦労や熱意を見てきたつもりなので、感慨深いものがある。とにかく皆さん、多忙な時間を何とか捻出して活動を行っておられた。その原動力はただただ、応用研が好きで、先生方が好きで、校友が好きで、自分達も何か出来ることがあればという気持ちに他ならないのではないだろうか。

「連携と融合」が大切だ、ということに異論を唱える人はあまりいないと思う。でも、実際にはその難しさは社会にでるほどに感じる。小さなところで言えば、援助の有無にかかわらず普通の仕事の中で、関わりのある方々ときちんと連携や融合をしているか？仕事を抱え込んでないか？逆に投げきってしまっていないか？相手の考えや言っていることを理解しようとしているか？こんな身近で慣れた環境のところでも考えてしまうのに、自分には連携や融合は果てしなく遠いのではないかと、片隅に葛藤を抱えつつ仕事をする。・・・悩んでいても仕方がない。まずは連携と融合の重要性を常に意識し、気持ちを持つことが大事だと開き直る。職場で“福祉マインド”という言葉をよく耳にするのだが、2年間で種をまき、今も根をはやし葉を茂らせようと成長しつづける、“福祉マインド”ならぬ“応用マインド”とも呼んでおこうこの気持ちを大切に、一步一步取り組んでいきたいと思う。

最後に、ニュースレターというのは文字や画像のデータとして残っていく。広報をきちんとすれば、多くの応用の方々や対人援助に関心のある方々に見ただけのほずである。その積み上げのなかで、こんな修了生がいて、こんなことを考え活動をしているんだ・・・そんな情報共有の場になればよいと思う。まずは知ってもらうこと、関心を持ってもらうことの機会の1つとして。そんなことを願いながら、また今回ニュースレターに協力して下さった方々に感謝しながら、編集を終えたい。(浅井)

第5回 総会報告

1. 日時:

2012(平成24)年1月23日(月)21:15-21:45

2. 場所: 立命館大学 衣笠キャンパス 創思館 303.304

3. 議題

(1) 審議事項

- ① 議長の選任・議事進行者の選任
- ② 2010年度活動報告・校友会入会状況
- ③ 2010年度会計報告(収支報告)
- ④ 2011年度予算
- ⑤ 2011年度活動予定
- ⑥ 役員の改選について
- ⑦ 議決及び審議

(2) その他

滝野教授退職記念講演のご案内

4. 出席者

総数: 22名(会員16名、役員[新役員含む]6名)

校友会への入会方法

■ 手続き

1. ホームページより「入会申込書」をダウンロード
2. 「入会申込書」にデータで記入
※振込予定日を必ず明記してください。
3. 「ghs-alum@st.ritsume.ac.jp」へデータを添付し、送信
4. 終身会費(10,000円)を下記へ振り込む。
5. 校友会より入金確認のメールが届く⇒完了

■ 会費振り込み先

京都信用金庫 壬生支店(012)

普通預金

口座番号 0814960

口座名義 立命館大学大学院 応用人間科学研究科校友会

フリカナリツメイカンダイガクダイガクイン

オウヨウニンゲンカガクケンキュウカコウユウカイ

● 校友会より ●

* 第2号ニュースレターの感想やご意見をお待ちしております！

* 会員のみなさまへ：ご案内を送る際、毎回何枚かが宛先不明で戻ってきます。住所変更等ございましたら、是非ともご連絡をお願い致します。

* 校友会役員活動に関心のある方は是非お問い合わせください。

⇒すべての連絡先：ghs-alum@st.ritsume.ac.jp

発行：立命館大学大学院 応用人間科学研究科校友会

ホームページ：<http://www.r-gsshsa.jp/>

連絡先：075-465-8370（独立研究科事務室実験・実習相談室）

メール：ghs-alum@st.ritsumei.ac.jp

立命館大学大学院 応用人間科学研究科 校友会は、2007年9月16日に設立しました。